

事務事業チェックシート

事務事業No **620** 事業名 **少年自然の家管理事業**

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		少年自然の家管理費	
	大事業			
事項			少年自然の家管理事業	

[長期総合計画]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	2	青少年の健全育成
施策	1	青少年の健全育成
基本方針	2	青少年の健全育成環境の充実

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標	IV	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る
政策	6	教育の充実
施策	I	生涯学習の推進

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	永年
事業実施の根拠法令	少年自然の家条例		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	少年自然の家	所長	加藤裕晃 (459-2107)
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容				
事業概要	施設利用者の利便性、施設の整備を図ることにより、少年の活動の場としての充実を果たし、ひいては情操を豊かにし心身の健康を図る場としての施設管理及び運用		少年自然の家の維持管理。施設老朽化による建替のため平成28年7月31日をもって、少年自然の家としての役割を終える。その後、8月1日からは青少年国際交流施設準備事務所となり施設の整備終了まで事務を執り行う。			
	実施内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
維持管理事業・運営事業		維持管理事業・運営事業	維持管理事業・運営事業	維持管理事業・運営事業		
開所日 301日 受入日数 200日		開所日 301日 受入日数 105日	開所日 302日 受入日数 158日	開所日 122日 4月1日から7月31日まで開所。9月から現存建物解体撤去予定		

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	36,678	30,590	12,995	11,555	42,393	34,019	215,147			
伸び率 (%)	-	-	-64.6%		226.2%		407.5%		-100.0%	
人件費	常勤職員	17,955	18,253	15,700	15,321	15,178	15,200	15,178		
	非常勤職員	2,812	2,810	3,512	3,930	3,930	3,369	3,930		
	小計	20,767	21,063	19,212	19,251	19,108	18,569	19,108		
国庫支出金	2,594	0	0	0	14,034	11,597	37,320			
県支出金	0	0	0	0	0	0	0			
市債	1,100	0	0	0	0	0	125,400			
その他	25,051	19,707	2,497	2,278	17,247	13,914	11,188			
一般財源(税等)	7,933	10,883	10,498	9,277	11,112	8,508	41,239			
所要人数	常勤職員	2.40	2.40	2.07	2.06	1.96	2.04	1.96		
	非常勤職員	1.33	1.33	1.67	2.00	1.90	1.71	1.9		
主な予算内訳	光熱水費2,141千円、管理委託料900千円、庁用燃料費585千円、手数料972千円、解体撤去工事請負費130,032等									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	開館率（開所日／開所可能日数）				年度目標値	100	100	100	100
					実績値	100	100	100	
	単位	%	全体目標値	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%
						年度目標値			
成果指標	年間利用率（受入日数／受入可能日数）				年度目標値	100	100	100	100
					実績値	66.4	34	52	
	単位	%	全体目標値	全体目標達成度	52.0%	年度別達成度	66.4%	34.0%	52.0%
						年度目標値			
					実績値				
					年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>現在、少年の野外活動、集団宿泊体験を通じ、少年の健全育成に成果を上げているが、人件費の抑制、市民サービスの向上を図るうえで、施設の改築後、指定管理者制度の導入を検討する必要がある。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>利用者が快適に過ごせるよう、老朽化した当施設の改築を行う。また、改築後の運営・実施体制については以下の3点を検討する。</p> <p>①少子化の影響により現在、小・中学生の利用者が減少傾向にあり、また、高校生・大学生からの利用したいのといあわせがあることから、利用率向上を図るため、青年の利用ができるよう検討する。</p> <p>②市民サービスの向上や経費削減を図るため、指定管理者制度導入について検討する。</p> <p>③改築後、使用料の見直しを検討する。</p>